

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000064		
法人名	株式会社 e-ケア		
事業所名	グループホーム あんしん・ふらの(ほくと)		
所在地	富良野市末広町6-22		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0193000064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイケア、保育施設、3階にサービス付高齢者向け住宅があります。2階に2ユニットのグループホーム あんしん・ふらのがあります。併設された整形外科医院が横にあり、医療介護福祉の複合施設です。市内に連携施設のグループホームや近くの商業施設などもあり、地域で安心した生活を送ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『グループホーム あんしん・ふらの』は富良野市の商店街とそれに隣接する住宅街の中間に位置し、買い物には徒歩で行くことが出来、又閑静な住宅街は絶好の散歩コースでもある。当事業所は鉄筋3階建てで2013年に1ユニットとして開設され、当初併設されていたサービス付き高齢者住宅の壁を取り壊し、昨年1フロア2ユニットとした。1階にはデイケア、保育園そして事業所の法人主体であるリハビリ施設を備えた整形外科病院、3階にはサービス付き高齢者住宅が併設され、介護を始めとして、防災、推進会議等に於いての協力体制が常に作られている。当事業所の特筆すべき点は、“eケア”(良いケア)を目指す法人代表であり整形外科医でもある病院長自らが、利用者の望む看取りへの思いの実現の為に、看取り時の責任医師となり全職員の先頭に立ち、そして今年6月には3人の利用者を手厚い介護の中でその家族と共に看取りを行った。又、代表の介護に対するその強い意志の元で、開設以来4年間当事業所の17名の職員の離職者は一人もいないという事である。「介護の仕事は難しいが、利用者の立場に立った介護がしたい」と語る職員の安全、安心の介護の中で、利用者が日々暮らす『グループホーム あんしん・ふらの』の今後にお一層の期待をしたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内にホーム理念、ケア理念を掲示しスタッフ全員が認識・共有しながらケアに取り組んでいる。	「あなたの心に寄り添いあなたらしく…」の理念の元に、常に利用者の思いに寄り添うこととし、職員は1ヶ月に1度のケア会議、毎月のミニケア会議等で確認し、“eケア”(良いケア)の実践に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し地域行事に参加させていただいている。	1階の保育園児の来訪による利用者とのふれ合いもあり、又法人、市と共に認知症に対する市民講座等を開催し、現在行政の協力を得ての認知症カフェの開設を検討課題として努力している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して施設での生活状況を報告し地域の方に理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の方、ご家族様へ現状報告等意見交換行いケアに活かしている。	運営推進会議は、家族、民生委員、町内会連合会長等の出席を得て定期的に開催され、ヒヤリハット、事故報告等も積極的に議題とし、活発な会議となっている。その議事録は全家族に送付し、運営推進会議の充実に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と密に連絡を取り合い、現状報告や連携を取りながら協力体制を築いている。	1ヶ月に1度の富良野市主催の地域ケア会議にケアマネジャー、管理者が積極的に参加することとし、又生活保護課とも相談する等して、市との連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1回開催し身体拘束について話し合いを設けている。研修会へ参加し情報共有しながら拘束予防に努めている。玄関の施錠に関しては随時対応している。	新人職員等の馴れ馴れしさと親しさの勘違い等は都度注意することとし、外部研修に積極的に参加させ意識の充実を図っている。又、3階サービス付き高齢者住宅と合同で委員会を作り情報を共有し、身体拘束をしないケアの実践に日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を月に1回開催し虐待について話し合いを設けている。また、研修会へ参加し情報共有しながら虐待防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会へ参加し、他のスタッフへ伝達、得た知識を活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関する事前相談や契約に関しての疑問等あれば都度説明し理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見や要望等あれば都度対応し、反映できるよう努めている。	過去に家族へのアンケート調査を行っており、又利用者の生活状況等を知らせる「あんしんだより」を年4回発行し、来訪時、電話等を利用しての家族の意見、要望の聴取を行い、記録簿を作成し職員で情報を共有し運営への反映に努めている。	全家族の意見の集約の為に「あんしんだより」の裏面を利用者個人に特化し、又徐々に発行回数を増やす等の事業所の更なる積極性を示す事で、家族の意見、要望の運営への反映になお一層の充実を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にケア会議を開き、スタッフ間の意見や提案を聞く機会を設けている。	活発に意見を言える職員を育てる事を目標とし、1ヶ月に1度のケア会議に向けて職員一人ひとりに「認知症高齢者をどう見るか」等の課題を与え、その意見を聴取し、そして運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが向上心を持って働ける環境を作り、サポートや制度を活用してスタッフの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加しサポートや制度を活用してスタッフの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベント等を通じて、他事業所の方との交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を通して思いを傾聴し安心して過ごしてもらえるよう努めている。また、要望等あれば随時聞き取りを行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等通してご家族様と話し合う場を設けご家族様の思いを傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシート等を参照し入居前の状況を把握した上で必要なサービスを提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場でもあり、ご本人様の立場を踏まえながら家庭的な雰囲気与生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対し面会や電話にて日頃の身体状況など近況報告している。ご本人様に寄り添えるようご家族様の協力を得ながら関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人による面会や買い物など馴染みの店まで外出している。また、馴染みの街風景など見にドライブへ出掛け外出支援に努めている。	当事業所は広域連合によって、利用者は居住市町村に限ることなく入居出来るが、併設のサ高住に知人が入居する等して付き合いが継続し、又ドライブ等の外出時に元住んでいた地域を訪ねる等馴染みの人、場の関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや会話を通じて関わる機会があり、スタッフが間に入り円滑にコミュニケーションが取れるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談業務や支援できる体制を作り、関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りご本人様の意向や希望を聞き取り、より良いケアが出来る様努めている。	利用者の思いや意向の把握は、職員が寄り添う介護の中で聴取、確認に日々努め、利用者の終末期への意向を始めとした食べ物の嗜好、思い出等を連絡ノートに記載し、職員全員がその情報を共有する事により“eケア”（良いケア）の実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしを尊重しご本人様の暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合いながら情報を共有しサービスに反映できる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を開催し検討事項など話し合い、情報の確認、共有を行いながら介護計画に活かしている。	職員を担当制とし定期、必要時のケア会議、カンファレンス等を開催しモニタリングを行い、通常3ヶ月毎の介護計画を作成している。介護計画に於ける短期目標は利用者それぞれ個別に特化したものとし、そしてその実施が事業所に於ける利用者の日常生活ともなるように日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノートを利用して情報を集め、スタッフ間で共有してケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じたサービスが提供出来る様、ご本人様、ご家族様のニーズを考え取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人や地域の方との交流、馴染みの店などを利用し楽しみを持ちながら生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や併設されている提携病院への受診を行い、適切な医療が受けられるよう医療連携をとり支援している。	内科は協力病院での受診とし、皮膚科等の専門病院は家族、職員の同行としている。又利用者の状態変化等が生じた場合は、速やかに法人代表の医師へ連絡することとし、利用者の健康維持、体調管理の為の医療体制が万全となるよう日々努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている提携病院の看護職員へ随時ご本人様の身体状況について報告し医療連携が取れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会や病院関係者と連絡を取りあい、入院時の身体状況の把握、退院に向けての今後のケアについて相談し、関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人様に対し終末ケアに関して、入居時などに事前に要望等調査を行い看取りに関しての意志確認を行っている。また、併設されている病院Dr.とスタッフ、家族様、ご本人様と連携を取り情報を共有している。	利用者の終末期、看取りへの意向、思いは生活過程の中で再確認を行い、職員の介護の中で看取ることとし、又看取りのその時には法人代表である医師が協力医から連携、引き継ぎを行い、“eケア”の実践として自らが職員の先頭に立ち、利用者の最後を手厚く看取り、職員全員と共に見送ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など話し合い、また、講習会に参加して勉強会を開催し身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練等を行い、シミュレーションをする事で対策が取れるよう努めており、防災対策マニュアルを作成している。	避難訓練は、年2回昼間、夜間想定の下で1階デイケア、3階サ高住との合同で行い、自然災害時には、利用者全員が3階へ避難することとし、食料の備蓄はもちろん自家発電装置も備え、利用者の安全、安心の防災体制が図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに配慮しながら一人ひとりの人格を尊重した声掛けを行い対応している。	利用者への呼び掛け時には苗字に“さん”付けを基本とし、利用者によっては個別対応もある。職員は外部研修等に積極的に参加し、細やかな気遣いのある介護が出来るよう日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いに寄り添うケアに心掛け、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様一人ひとりの生活リズムに添って過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容院に依頼したり、行事等の服装選び、爪切りや顔そりなどの身だしなみに配慮出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注しており、週1回のセレクトメニューの実施や入居者様の状況に合わせた食事を提供している。また、他の入居者様とテーブルを囲み、テレビを観ながら食事時間を楽しんでいる。	病院、デイケア、サ高住が同一の食材、献立、調理の外部発注とし、利用者は建物内厨房で作られた温かい食事を食べることが出来る。週1回のセレクトメニューは利用者に好評であり、外食は個別対応とし街の馴染みの食堂へ出かけ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が毎日の献立を作成し栄養状態を管理している。一人ひとりの状況に合わせ栄養状態、水分調整を行い工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れや臭いなど口腔状態について話し合いを設けており、うがいや舌苔の有無、義歯の手入れなど見守りや介助にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせた排泄ケアを行っているが、なるべくトイレでの排泄が出来る様自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンをケアプランに記入することで職員がその情報を共有し時間誘導、声掛け等を行い、その効果によりオムツから布パンツへ移行する利用者もあり、又車イス使用の方も極力歩いてトイレへ行くこととし、オムツを使用しない生活が普通であるように日々努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや下剤等利用して排便コントロールを行い体調管理に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番を曜日毎で決めるのではなく、ご本人の体調や希望に応じ入浴して頂いている。また同性スタッフが対応するなど性への配慮に心掛けている。	入浴は週2回以上とし、毎日入浴したい利用者には個別に対応し毎日の入浴としている。バスタブは介護者に便利な可動式となっており、お湯は流し湯で清潔にしている。拒否者には入浴にいろいろな工夫をしており、又同性介護への細やかな気遣いも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を確認し安眠していただけよう居室の灯などの調整や体調の変化に配慮し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルを参照し、個々の服薬状況の確認や副作用の症状を理解している。また、医療連携を行いながら体調変化に合わせて服薬調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼりたたみなど日課として家事をして頂いたり希望により外出やレク参加を促し気分転換できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に添えるようスタッフが協力し連携をとり外出支援している。また、ご家族様の協力を得て馴染みの場所まで外出できるよう努めている。	自由に使える車両を備え、富良野地域独特の“花”見物に出かけたり、徒歩で近隣の商店街で買い物、美容院に行ったりと、利用者の要望に応じて個別に対応している。又、日常的には事業所近辺の住宅地を散歩コースとして、外出の支援に日々努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて預かり金として管理しており買い物など必要に応じて使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望により電話をかけたりスタッフが代筆してご家族様へ手渡しするなど、ご家族様とのやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのイベントやホールなどの共有スペースに飾り付けを行い、季節の変化を感じられる雰囲気づくりを行い安心して過ごせるよう工夫している。	共有空間は暖かな陽が差し込む窓が多く作られ、広い廊下のコーナーにはソファが置かれ、利用者がいつでも休めるよう配慮されており、広く明るい食堂、リビングは2ユニットの中央にあり、そこで利用者は美味しく温かな食事をし、利用者同士、そして職員との楽しい会話の声がいつも聞こえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者様同士で会話出来る様テーブル席の工夫やくつろげる様な居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物や家具などを持ち込んで頂き、本人の生活スタイルにあった環境で生活出来る様努めている。	居室は入居者のプライベートな空間であり、そこで入居者は一人の寛ぎの時間を持つことができる。そして「利用者は自分のおじいちゃん、おばあちゃんみたいで親しみを持って関わると楽しい」と語る若い職員の“心に寄り添い、安心した生活を送れる”介護の中で利用者は日々暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などマークで印したり居室を間違えないよう目印を作る等工夫し、安心、安全に暮らせるよう環境作りに努めている。		